2020年度現業公企統一闘争　要求申入れ

技能・業務職の新規採用を求める

9月18日（金）13時から環境局長室において2020年度現業公企統一闘争要求の申入れを行った。

9月11日（金）に行われた第8回支部中央委員会で承認を得た支部の重点要求を申し入れた。

今年度の要求申入書は、川崎市全体の現業職人員確保に向けた要求を追加した。これまで技能・業務職としての採用選考とはいえ、資格要件に大型特殊自動車免許があることから、実質技能職として採用が行われてきた。また、採用選考については資格要件の違いから他都市に比べ応募者が圧倒的に少なく、かつ年齢層も高い。応募者の増加及び採用枠の拡大、若年層が採用されることを狙い、業務職の採用選考を行うことを求めた。

そのほか欠員補充や車両の確保など全部で13項目45点を挙げ、これらの項目を支部から当局への要求として局長へ申し入れた。

記事に関する疑問と解説

① 現業公企統一闘争とは

自治労組合組織の現業職労働者で結成されている「現業評議会」と上下水道等県職公営企業体の労働者で結成されている組合「公営企業評議会」が一体となって取組んでいる闘争。統一指標・重点課題・妥結基準を定め、人員に係る要求等の申入れと話し合いを行っている。

今年の統一指標は「現業・公企をはじめとするすべての業務の直営を堅持し、公的サービスの拡充に向けての政策確立と人員確保」。重点課題は、「新規採用による正規職員の欠員補充」と「退職者不補充の撤回」。妥結基準は、「直営堅持」、「正規職員による欠員補充」、「要求項目の前進」を基本としている。

せいそう労働者

川崎市職員労働組合
清掃支部
発　行
川崎市川崎区東田町7-2
東田ビル2階

電　話　044(222)5906
発行責任者　渋谷　勝美
編集責任者　稲葉　拓也

清掃支部ホームページ
ＱＲコード

直営をささえる

仲間達（357）

堤根分会　葛西　憲治（かさい　けんじ）

皆さんこんにちは。堤根分会の葛西です。私は、川崎清掃事務所に入所し、その後、南部生活環境事業所、堤根処理センター技術係、今年、操作係に異動しました。

操作係の仕事は覚えることが多く、毎日熟練の方々に教わりながら過ごしています。狭い所に入り汗だくになったり、灰をかぶってしまったり、ごみの臭いが体中についたりと今年の夏は堪えました。しかし、その後に飲む冷えたビールは何とも言えません。最近は、体に気を遣い、飲む量を減らしましたがやめることはできないです。一日のニュースを見ながら飲むビールは最高です。

私の趣味は、録画したドラマや洋画を観ることですが、8時から9時頃には眠くなり、毎日睡眠時間だけは充分とっています。皆さんも体に気を付けてお過ごしください。

①年齢：、②入庁年度：、③分会役：④職種：、⑤業務内容：、⑥趣味、最近はまっている事：

分会だより　浮島分会　No.200

こんにちは浮島分会です。

今回は私たちが毎月行っている人権研修の取組みについて紹介させていただきます。

8年前から始まったこの取り組みは管理職に任せきりの研修ではなく個々人が日々の中で感じたことをふまえニュースや新聞記事などの題材を基に少ずつでもいいから職場の中で人権諸課題を考えることができる環境を作っていこうとの思いのもと、ローテーションを組み進めてきました。

開始当初は「人権って難しいし、自分から発信するのは気恥ずかしい」と苦労をしながら資料を作成し、各々が責任をもって自分の考えのみならず、お互いの価値観を共有していくことができました。

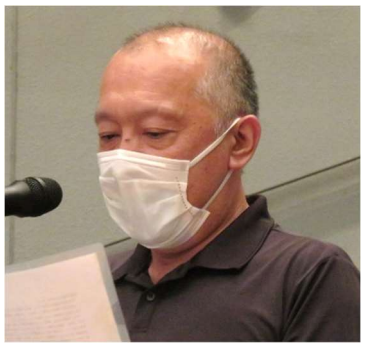
今後もお互いを尊重しあい、より良い職場環境をめざして様々な課題に取り組んでいきたいと思います。

川崎市職労本部 第81回定期大会 開催

技能・業務職の新規採用枠拡大と人権を確立する取り組みについて発言

大会運営は来賓を呼ばず、代議員は各支部一定の割合で減らし、ソーシャルディスタンスを保つための対策が取られた。また、議事内容を簡素化することで、従来は1日開催であったところを半日開催に短縮されたが、発言の機会は確保され、清掃支部代議員から2点の発言が行われた。

●菅原代議員からの発言



▲ 菅原代議員、発言の様子

「昨年、川崎市は台風19号に伴う災害が発生し、2日後から災害廃棄物の収集・仮置き・運搬・処理が動き出しました。対応中、指示連絡系統の不備など、課題が浮き彫りになりましたが、中でも感じたのは災害対応を始め様々な経験が豊富な現業労働者の必要性です。今年のコロナ禍においても市民から市職員宛てに励ましの手紙をたくさん頂きました。現業労働者が市民から必要とされているのは明らかです。災害に強い街、市民に寄り添う街を作るため、また、これまで培われてきた知識と技術を継承するためにも、現業職場の安易な委託化を阻止し、技能・業務職の新規採用枠拡大をお願いします。」

・発言に対する本部答弁

「災害やコロナ禍においても業務対応に当たられた清掃支部の皆様に心より敬意を表します。災害時における速やかな初動については、現業労働者の仲間がいるか、いないかで大きく異なったことは明確だと考えております。また、災害等の対応を円滑に行うためには培ってきた知識や技能の継承が必要と考えています。本部はこのことを当局に認識させ、技能・業務職の新規採用枠拡大を求めていきたいと考えています。」

●久保田代議員からの発言

▲ 久保田代議員、発言の様子

「長年続く特定の組合員を標的としたヘイトクライムについて。昨年は、我々の仲間を差出人と偽る爆破予告、今年は組合員の職場に在日朝鮮人を殺害する年賀状が届きました。支部は、本人にとっては十分とはいえないかもしれませんが寄り添えるよう努めて参りました。本部として被害者である組合員にどう寄り添うべきかお聞かせください。

一部のヘイトクライムについては、標的となった組合員とかつて同じ職場で働いていた川崎市の元職員が逮捕されました。二度とこのようなことが起きないよう組合員に対してどのようなアプローチが必要かお聞かせください。そして、一連のヘイトクライムに対する市長の発信を市職労本部としてどう考えているのかお聞かせください。」

・発言に対する本部答弁

「本部としては支部と同様に仲間、そして家族の安全を第一に考えながら情報収集に務め、被害を受けた仲間を守りつつ、二度と同様の事件を起こしてはならないという啓発に努めていくことが役割であると考えております。

組合員へのアプローチについては、川崎市差別のない人権尊重のまちづくり条例の主旨を全ての組合員が理解し、高い人権意識を持てるよう取組むべきと考えております。最後に市長の発言について、発信個々に対する評価は差し控えさせていただきますが、条例作成に向けたプロセスの中ではヘイトスピーチや差別に対する強い信念が市長からも発信されているものと考えております。」

●本部委員長総括答弁（抜粋）

現業部門の人員確保について、この間、業務のアウトソーシングと定数削減を繰り返してきましたが、頻発する自然災害、予期しなかった感染症の拡大、このようなときに市民対応を第一線で行う現業部門の再構築を訴え必要な人員確保に向け取組みます。

組合員が被害者となった事件については、実に四半世紀を超えてその痛みや苦しみが継続していたことが明らかになり、市職労としての不作為を深く反省するとともに改めて学び直しと歩みだしをしなければならないと思います。自治研活動や機関紙紙面の活用なども通して取組みを進めます。

隣にいる仲間を想う

～在日外国人と日本人は国籍・民族を超えていけるか～

第27回　林　慶一

●出会いを大切にしたい～お互いに成長できる関係～

いきなり社長面接とは驚きましたが承諾しました。社長は予想よりも若く、にこやかな表情でヨンスに握手を求めてきました。そして、うちの会社で何をやりたいのか、と聞きました。ヨンスは、人と会う仕事がしたいので営業職に就きたい、と答えました。社長は、うむ、とうなずいたあとその会社の営業職について説明をし、わけのわからないうちに面接が終わっていました。結果は追って連絡するとのことでしたが、まさか連絡が来るとは思ってもみなかったので連絡先は日本の実家を連絡先にしていました。

その会社は印刷の前工程である版面をつくる製版会社で、もともとの志望の、本に関わる仕事とは若干ジャンルが違っていて、どうしても入りたいという会社ではありませんでした。しかし一度でヨンスの名前を憶えてくれたことが他の会社とは違っていて印象に残っていました。電話のあとヨンソンに相談したら「言葉を発揮できるところでないともったいないだろ？」と言い、「クロム！（そりゃそうだ）」と答えたあと、「ハジマン…（でもさ…）」と続けました。「ハジマン…出会いを大切にしたいんだよね」

ヨンスは先ほどの電話での会話を思い出していました。面接のときに名前を一度で覚えてくれた足立さんというその面接官はこう言ったのです。「外国人を採用するという試みは初めてだが、この出会いを大切にしたい。キムさんがウチで働くことになれば、キムさんも成長すると思うし会社も成長できると思う」

その言葉はまさに無限の可能性を秘めていました。しかし、仕事で朝鮮語の能力を認めてもらうことは容易ですが、朝鮮語の能力とは関係ない世界で、キム・ヨンスという一人の人間を認めてもらうことはそう簡単ではないはずです。ですが、もし足立さんの言うようにお互いに成長ができるのなら、日本での新生活は、結構良いスタートを切れるのではないかと思い、この会社で頑張ってみようかという気持ちになっていました。

（次号へ続く）